

第8課

❖❖ コンビニ前で待ち合わせをする ❖❖

スキット

のぞみとサイダがコンビニ前で待ち合わせをしています。サイダは遅れてやって来ました—

Saida (S) : Hujambo ?

Nozomi (N) : Sijambo.

S : Habari za asubuhi ?

N : Nzuri.

Umechelewa.

Kwa nini ?

S : Nimepotea.

Konbini ndiyo hii.

Ni mara yangu ya kwanza **kufika** duka la *konbini*.

N : Haya.

Basi tununue vitu vya mandari.

サイダ (S) : おはよう、元気？

Ohayou, genki ?

のぞみ (N) : おはよう、元気だよ。

Ohayou, genkida yo.

S : どう？

Dou ?

N : まあまあだよ。

Maamaada yo.

遅かったね。

Osokatta ne.

どうしたの？

Dou shita no ?

S : 迷っちゃった。

Mayochatta.

コンビニってこれかあ。

Konbini tte kore kaa.

コンビニに入るの、初めてなんだ。

Konbini ni hairuno, hajimetenanda.

N : そうなんだ。

Sounanda.

じゃあ、早速ピクニックの買い物をしようか。

Jaa, sassoku pikunikku no kaimono wo shiyou ka.

解 説

第8課では、次の項目について学びます。

- ◆ [動詞シルシ形] コトの式
- ◆ [名詞クラス] クラス 1/2・11・15



◆ [動詞シルシ形] コトの式

まずは、動詞シルシ形のコトの式からです。スキットの中にこのような形のものが出てきましたね。

kufika

これまでのスキットにもいくつか登場していました。これらがコトの式です。

kukuona kumrudishia
kumnunulia kuwa
kwenda (< kuenda)

いずれも文字通りの意味はこのようになっています。

kufika	〈 <u>着くこと</u> 〉
kukuona	〈 <u>あなたに会うこと</u> 〉
kumrudishia	〈 <u>彼(女)に返すこと</u> 〉
kumnunulia	〈 <u>彼(女)に買ってあげること</u> 〉
kuwa ~	〈 <u>~であること</u> 〉
kwenda (< kuenda)	〈 <u>行くこと</u> 〉

コトの式の仕組みはこのようになっています。まず最初にコトの式のシルシ‘ku-’が入ります。主語のシルシと時間のシルシは入りません。動詞本体はそのままの形です。

▽ コトの式

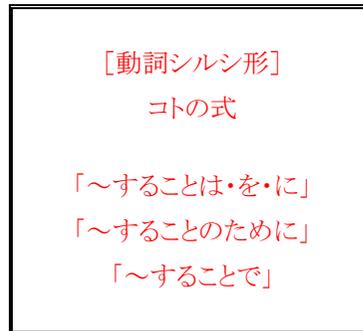


コトの式の否定形は、コトの式のシルシ‘ku-’の後に‘-to-’を入れて表わします。

▽ コトの式(否定形)



コトの式は主に、「～することは・を・に」、「～することのために」、「～すること
で」の3つの意味を表わします。



例を見てみましょう。

○ 「～することは・を・に」

((例 1)) Nataka kumnunulia zawadi.

〈彼(女)にプレゼントを買ってあげたい。〉

(プレゼントを彼(女)に買ってあげることをしたい。)

(‘+ nunulia’ 〈～に買ってあげる〉)

((例 2)) Nangojea kwa hamu kwenda mandari.

〈ピクニックに行くのを楽しみにしている。〉

(ピクニックに行くことを楽しみにしている。)

(‘+ enda’ 〈行く〉)

○ 「～することのために」

((例 3)) Tufuatane kwenda mandari.

〈一緒にピクニックに行こう。〉

(ピクニックに行くことのために連れ合おう。)

((例 4)) Tulikwenda kununua chakula.

〈私たちは食べ物を買いに行った。〉

(私たちは食べ物を買うことのために行った。)

(‘+ nunua’ 〈買う〉)

○ 「～することです」

((例 5)) Nimefurahi kukuona.

〈お会いできて嬉しいです。〉

(あなたに会うことです嬉しい。)

(‘+ ona’ 〈会う〉)

((例 6)) Alisikitika sana kusikia hayo.

〈彼はそれを聞いてとても残念がった。〉

(彼はそれを聞くことですとても残念がった。)

(‘+ sikia’ 〈聞く〉)

◆ (名詞クラス) クラス 1/2・11・15

さあ、名詞クラスについて、この課ではクラス 1 とクラス 2, クラス 11, クラス 15 について見ていきましょう。まずはクラス 1 とクラス 2 からです。

クラス 1 とクラス 2 は人のクラスです。クラス 1 はすでに見た 3 人称単数に、クラス 2 は 3 人称複数に相当します。クラス 1 の名詞は‘m-’から、クラス 2 の名詞は‘wa-’から始まります。

[クラス 1 / クラス 2]

○ 人

名詞のシルシ:

m- / wa-

例を見ておきましょう。

クラス 1 (単数)		クラス 2 (複数)
■ mtu	/	watu
〈人〉		〈人々〉
■ mtoto	/	watoto
〈子ども〉		〈子どもたち〉
■ Mjapani	/	Wajapani
〈日本人〉		〈日本人たち〉

クラス 11 には抽象名詞が含まれています。他に糸や歌、風などの語もこのクラスに含まれています。クラス 11 の多くの名詞が‘u-’から始まります。このクラス 11 の複数形は多くがクラス 10 になります。

[クラス 11 (/クラス 10)]

○ 抽象名詞 (クラス 11 のみ)

○ 糸, 歌, 風 など

名詞のシルシ:

u- (/ n-)

クラス 10 はクラス 9 の複数形のクラスでもありましたね。

例を見ておきましょう。

クラス 11 (単数)		(クラス 10) (複数)
■ ukubwa		
〈大きさ〉		
■ uzi	/	nyuzi
〈糸〉		〈糸〉
■ wimbo	/	nyimbo
〈歌〉		〈歌〉

クラス15は動詞の名詞形(動名詞)のクラスです。このクラスの名詞は‘ku-’から始まると決まっています。先ほど見た動詞シルシ形コトの式と同じ形をしています。

[クラス 15]

○ 動詞の名詞形

名詞のシルシ:
ku-

例を見ておきましょう。

クラス 15

- kusoma
 〈読む〉
- kuandika
 〈書くこと〉
- kuona
 〈見ること〉

❖ · · ❖

それぞれのクラスにはクラス共通のシルシがあり、それぞれのクラスと関わる語もそのクラス共通のシルシを付けるのでしたね。クラス 1/2 とクラス 11 とクラス 15 のシルシも見ていきましょう。

その前にまずは〈の〉や〈私の〉, 〈この〉などの型の確認です。このようになっていましたね。‘=’のところそれぞれのクラスのシルシが入ります。

▽ 〈の〉や〈私の〉, 〈この〉などの型

=a	〈の〉		
=angu	〈私の〉	=etu	〈私たちの〉
=ako	〈あなたの〉	=enu	〈あなたたちの〉
=ake	〈彼(女)の〉	=ao	〈彼(女)たちの〉
h=	〈この/これ〉	h=o	〈その/それ〉
=le	〈あの/あれ〉	=pi	〈どの/どれ〉



ではまずクラス1の〈の〉や〈私の〉、〈この〉などから見ていきましょう。このようになっています。

▽ クラス1の〈の〉や〈私の〉、〈この〉など

wa	〈の〉		
wangu	〈私の〉	wetu	〈私たちの〉
wako	〈あなたの〉	wenu	〈あなたたちの〉
wake	〈彼(女)の〉	wao	〈彼(女)たちの〉
huyu	〈この/これ〉	huyo	〈その/それ〉
yule	〈あの/あれ〉	yupi	〈どの/どれ〉

‘w’の音、あるいは‘y’の音が共通していますね。‘y’に‘u’がくっついていたりもします。

例を見ておきましょう。

- mtoto wa Nozomi 〈のぞみの子〉
- mtoto wangu 〈私の子〉
- mtoto huyu 〈この子〉
- Huyu ni mtoto wangu. 〈これは私の子です。〉

次はクラス2の〈の〉や〈私の〉、〈この〉などを見ていきましょう。このようになっています。

▽ クラス2の〈の〉や〈私の〉、〈この〉など

wa	〈の〉		
wangu	〈私の〉	wetu	〈私たちの〉
wako	〈あなたの〉	wenu	〈あなたたちの〉
wake	〈彼(女)の〉	wao	〈彼(女)たちの〉
hawa	〈これらの/これら〉	hao	〈それらの/それら〉
wale	〈あれらの/あれら〉	wepi	〈どれらの/どれら〉

‘w’の音が共通していますね。‘w’に‘a’がくっついているものもあります。

例を見ておきましょう。

- watoto wa Nozomi 〈のぞみの子たち〉
- watoto wangu 〈私の子たち〉
- watoto hawa 〈これらの子たち〉
- Hawa ni watoto wangu. 〈これらは私の子たちです。〉

クラス11の〈の〉や〈私の〉, 〈この〉などを見ていきましょう。このようになっています。

▽ クラス11の〈の〉や〈私の〉, 〈この〉など

wa	〈の〉		
wangu	〈私の〉	wetu	〈私たちの〉
wako	〈あなたの〉	wenu	〈あなたたちの〉
wake	〈彼(女)の〉	wao	〈彼(女)たちの〉
huu	〈この/これ〉	huo	〈その/それ〉
ule	〈あの/あれ〉	upi	〈どの/どれ〉

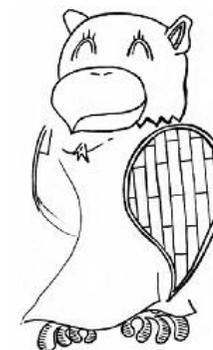
‘w’の音,あるいは‘u’の音が共通していますね。この‘w’は,‘u’が後に続く母音とひとまとまりになることによって,できたものです。

例を見ておきましょう。

- uma wa Nozomi 〈のぞみのフォーク〉
- uma wangu 〈私のフォーク〉
- uma huu 〈このフォーク〉
- Huu ni uma wangu. 〈これは私のフォークです。〉

‘uma’〈フォーク〉の複数形‘nyuma’も見ておきましょう。クラスは10です。

- nyuma za Nozomi 〈のぞみのフォーク〉
- nyuma zangu 〈私のフォーク〉
- nyuma hizi 〈これらのフォーク〉
- Hizi ni nyuma zangu. 〈これらは私のフォークです。〉



最後に、クラス 15 の〈の〉や〈私の〉、〈この〉などを見ていきましょう。このようになっています。

▽ クラス 15 の〈の〉や〈私の〉、〈この〉など

kwa	〈の〉		
kwangu	〈私の〉	kwetu	〈私たちの〉
kwako	〈あなたの〉	kwenu	〈あなたたちの〉
kwake	〈彼(女)の〉	kwao	〈彼(女)たちの〉
huku	〈この/これ〉	huko	〈その/それ〉
kule	〈あの/あれ〉	kupi	〈どの/どれ〉

‘kw’の音、あるいは‘ku’の音が共通していますね。この‘kw’は、‘ku’が後に続く母音とひとまとまりになることによって、できたものです。

例を見ておきましょう。

- kusoma kwa Nozomi 〈のぞみの読み〉
- kusoma kwangu 〈私の読み〉
- kusoma huku 〈この読み〉
- Huku ni kusoma kwangu. 〈これは私の読みです。〉

ここで一つ、注意しておかなければならない点があります。人間や動物の性質を持つ名詞の場合、所属クラスに関係なく、関わる語にはクラス 1 あるいはクラス 2 のシルシが使われます。つまり、その名詞が単数であればクラス 1 の、複数であればクラス 2 の〈の〉や〈私の〉、〈この〉などの形が使われるのです。

次に挙げる ‘ng’ombe’ 〈牛〉、‘ndege’ 〈鳥〉、‘samaki’ 〈魚〉はすべてクラス 9 の名詞ですが、人間や動物と同じ性質を持つ語であるため、このように〈の〉や〈私の〉、〈この〉などがクラス 1 の形になっています。

- ng’ombe **wa** Nozomi 〈のぞみの牛〉
(クラス 9) (クラス 1)
- ndege **wangu** 〈私の鳥〉
(クラス 9) (クラス 1)
- samaki **huyu** 〈この魚〉
(クラス 9) (クラス 1)

少しずつ慣れていきましょう。

